



旭山動物園だより

発行所
旭川市旭山動物園
動物図書館
☎0166-36-1104

毛も長く・密生し、脂肪も増えているけど
いろんな方法で暖をとっています



ニホンザルの北限にあたる青森県・下北のニホンザルは、国内の同種の中でも一番体毛密度が高く寒さに強いサルです。冬は手足を体に近づけ体をまるめたり、仲間同士くっついて寒さから身を守っています。気温が低くても太陽が出ていれば、太陽の方に向き、日光浴をして暖まっていますよ。本州には温泉に浸かるサルもいますね。

ニホンザル

動物たちの 寒さ対策

ヒト以外のほとんどの哺乳類の体毛は、短く柔らかい下毛（綿毛）と、長くて太い上毛（保護毛）の二層構造。寒い地域で暮らす哺乳類は冬になる前に毛の密度が増え、たくさん食べて体に脂肪を蓄え、夏より大きく、まったり体つきになります。動物によっていろんな寒さ対策がありますよ！



エゾタヌキ

脂肪&冬毛になってあまり動かず体力温存
秋にたくさん食べ、皮下脂肪を蓄え冬ごもりに備えるエゾタヌキ。毛の量が増えるのはもちろん、体重は夏の1.5倍ぐらいになります。野生下では、冬はあまり動かず、皮下脂肪を消費しながら寒い冬を乗り越えます。

ゴマフアザラシ

毛は短いけれど、
分厚い脂肪が熱を逃がさない

アザラシは魚を獲るために水中でのすばやい動きが求められるので、陸で生活する哺乳類より水の抵抗が少ない短い毛がはえています。毛が短い分、冬のアザラシは約10 cmもの分厚い皮下脂肪になり、体から熱が奪われるのを防ぐ構造になっています。また、体表から出る油分が下毛について水を弾くので、水が直接皮膚に触れず、体温が下がるのを防ぎます。

ホッキョクグマ

耳や鼻面が小さい「北極」仕様の体つき
毛ももちろん、耐寒性抜群！

ホッキョクグマは15 cmほどの上毛、5 cmほどの下毛がはえているので、熱を外に逃がしにくく寒さを感じにくい毛皮をまとっています。さらに、毛の内部がストローのように中空になっているので毛の内部に空気が入り、より体温を閉じ込めやすい構造になっています。また、耳や鼻面といった体から突出する部分が小さくなっていたり（ホッキョクギツネも同様）足の裏にも毛がはえているので、熱を外に逃がさず冷たさから身を守っています。

エゾユキウサギ

長く、密生する白い冬の毛は
暖かくて、しかも目立たない

ホッキョクギツネ

スズメ

ワシミミズク

オオアカゲラ

鳥類の寒さ対策

羽毛をふくらませて
体温を外に逃がさない

鳥たちは、ふかふかの羽毛布団のように、空気を体と羽毛の間に含ませることによって、体温を外に出さないようにして寒さから身を守っています。もちろん、物陰でじっとして寒さをしのぐこともあります。

鼻の先に毛がはえているのは、
園内では「トナカイ」だけ

トナカイの冬の毛も、ホッキョクギツネなどと同じように夏と冬で毛色が変わり、毛量も増えますが、一番の違いは、鼻の先が毛で覆われていること。トナカイは雪の下にはえているコケなどをむしりとり食べるため、雪に触れる鼻が冷たくなりにくいよう、みっちり毛がはえています。同じシカ科のエゾシカの鼻先には、毛がはえていないのでぜひ比べてみてくださいね。

トナカイ

公式ホームページのほか、各種SNSでも情報を発信中です。



公式Twitter アカウント



公式Facebook アカウント



公式YouTube チャンネル



公式Instagram アカウント



10回目の「雪あかりの動物園」も無事終わりました

まだまだ寒い日が続きますが春はもうすぐです
極地やロシア、日本でも北海道で生息する動物は寒くてもへっちゃら。でも、なぜ？と思いい、動物たちの寒さ対策をまとめてみました。冬に向けて太って脂肪層を増やして体温を逃がにくくする体質にも驚きですが、一番の驚きは「体毛」。人間は、一つの毛穴から一本の毛がはえますが、動物たちは一つの毛穴から複数本、それも2種類の毛がはえていて、冬はその毛が長く、量も増えてはえてくるのです。冬は「増毛」の動物たちですが、春には冬の毛が抜け、夏用の短い毛がはえてきます。人間が防寒着から薄手の上着に着替える春も、もうすぐ。